

事業所名	江東区こども発達センター		公表日 2025年3月31日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	22 (91.7%)	2 (8.3%)	整理整頓を心がけている。 複数の活動場所(部屋)がある。 ついたてを利用して集中できる環境を整えたり、使い方に合わせて使用している。	廊下に物が置けなくなり、収納スペースも不十分なため、クラス内に物を置かざるを得ない。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	13 (54.1%)	11 (45.8%)		洗濯や片付け、準備の手伝い等の雑務を担う方がいると、なおよい。 人数が基準を満たしていても、十分な業務遂行ができないことがある。 人数比は適当だと思うが、欠員が出ているところには速やかに人員確保をして欲しい。 より細やかな配慮や対応をするには、補佐的に活動を支える職員が必要。 スタッフがもう少しいた方がいいと思う。 一人ひとりの職員の負担が大きく、慢性的に疲れている。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	20 (83.3%)	4 (16.6%)	部屋の鍵などがこどもの触れる高さであり、触れないように保護カバーをしている。 こどもが興味関心を持ちそうな教具や教材があると思う。 自由遊びの内容をこどもや活動にあわせて変化させている工夫をしている。 見やすく使いやすい。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	24 (100.0%)	0 (0.0%)	業者の清掃だけでなく、気づいた時に掃除機をかけたり拭き掃除をしている。 修繕を終えたばかりなので、清潔感がある。 清潔で心地よく過ごせるように気をつけている。 都度、玩具の消毒や清掃をしている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	24 (100.0%)	0 (0.0%)	個室があり、医務室もあるため、必要があれば利用できる。 給食を食べる場所や検査の実施などで、環境を考えている。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	11 (45.8%)	13 (54.1%)	振り返りを行い、活動の見直しをしている。	PDCAサイクルにあたるものかわからない。 振り返りの時間がもっと必要。 時間確保が必要。 業務量が多くなっており、十分に力を注ぐことが難しい側面がある。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	22 (91.7%)	2 (8.3%)	評価の結果報告がある、また、面談やその他の場面で、保護者から出された意見や要望はクラスで周知している。 面談時や登園降園時にコミュニケーションを取っている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	16 (66.6%)	8 (33.3%)	年度末に個別の面談時間を設けてられている。 自己目標や自己評価のアンケート等で意見を言う機会がある。 日々のコミュニケーションの中で、意見を出し合っている。	職員の意見がもっと通るとよい。 アンケートに記載した意見や質問に対して、回答や説明をもらったことがないので、業務改善にどのように繋がっているのかわからない。 意見の吸い上げはあるがもっと改善につながってほしい。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	23 (95.8%)	1 (4.2%)	保護者向けの掲示物や物の配置など、中にいると気づきにくいことを指摘され、見直すことができました。 評価結果を知る機会がある。	
10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	24 (100.0%)	0 (0.0%)	職員からも研修内容のリクエストを取っている。 療育時間後に内部研修や外部の研修に参加をしている。 夏期休みなどを利用して開催している。	研修は単発的になっているため、年間を通じた研修計画や定期的な実施が必要ではないかと感じる。	
	11	適切に療育プログラムが作成、公表されているか。	20 (83.3%)	4 (16.7%)	クラス便りでプログラムの内容をあらかじめお知らせしている。また、そのプログラムを実施した後は、その様子を保護者に配信している。	作成準備をしている。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を作成しているか。	23 (95.8%)	1 (4.2%)	保護者からニーズを聞き取り、面談の中でもその内容に触れるようにしている。 時間かけてニーズを読み取り、5領域にわけて、具体的な目標で個別支援計画を作成している。	支援計画作成についての研修を実施して欲しい。
	13	個別支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	20 (83.3%)	4 (16.7%)	活動内容を細かく決めて提供している。 評価検討会議を開いている。	クラスの子どもの人数が多く全てを把握できないため、担当者任せになっている面もある。
	14	個別支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	18 (75.0%)	6 (25.0%)	共有できていないこともある。同じ活動内容であっても、こどもそれぞれねらいが違うことがあり、朝の打ち合わせで話すようにしている。 言語・認知学習を3人の職員で担当以外にも順番に回す工夫をして、情報共有をはかっている。	担当以外の支援計画に目を通す時間が十分に取れていない。 計画に基づいた支援の積み重ねができるとよい。

適切な支援の提供	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	22 (91.7%)	2 (8.3%)	確認している。	記録作成に時間が必要。
	16	個別支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	24 (100.0%)	0 (0.0%)	紙の上だけのことにならないよう、実施可能な内容を書くようにしている。 見学訪問や保護者の希望や了解のもと保育園の先生と定期的に連絡を取り合っている。 指導計画の目標に合った具体的な内容に設定されている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	21 (87.5%)	3 (12.5%)	各グループのプログラムがバラバラになりすぎないように、ある程度活動内容を統一している。 活動前に内容の打合せをしている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	23 (95.8%)	1 (4.2%)	段階を踏んで行っている。 プログラムの内容がクラスに適しているか相談している。 年齢やグループの特性に応じて変更している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる個別支援計画を作成し、支援が行われているか。	23 (95.8%)	1 (4.2%)	年齢やグループのメンバーを考えながら、活動のレベルを考えている。 作成後、クラスリーダーに確認を行っている。 保護者のニーズを聞き取り、作成し同意を得て支援している。	プログラム作成や振り返りの際に、支援計画を活用する仕組み作りの必要性を感じる。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	22 (91.7%)	2 (8.3%)	決められた時間に集まり、必ず打合せを行っている。 登園する園児の様子や配慮事項など確認している。	役割分担まで話が進まず、その場の状況に応じて体制を組むこともある。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	19 (79.2%)	5 (20.8%)	気づいた点の共有をしている。 振り返りを行い次回の活動に繋げている。	振り返りの時間を十分に確保できない時がある。 クラスによって差がある。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	23 (95.8%)	1 (4.2%)	記録への意識が高まっているように思う。 保護者に記録を配信している。 日々記録を取ることを徹底している。	
23	定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	20 (83.3%)	4 (16.7%)	日々記録を取ることを徹底している。 必要だと思われる時は見直している。		
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	24 (100.0%)	0 (0.0%)	業務の関係で、担当ではない職員が行くこともあるが、行く前に子どもの様子の引き継ぎは受ける。 担当者が基本参加している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	23 (95.8%)	1 (4.2%)	保護者には、必要に応じて連携ができる旨を伝えている。 施設見学や連絡等、連携している。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	24 (100.0%)	0 (0.0%)	資料作成にあたって。内容等の情報確認や共有を行ってから明記する。	情報共有が十分とは言えない場合もある。例えば、園によっては、前もって書き出しておいた、決められた質問以外は回答してもらえないこともある。行っているが、十分かどうかはわからない。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	24 (100.0%)	0 (0.0%)	必要に応じて発達移行支援報告書を作成している。 就学支援シートに発達支援報告書を添付して、引き継ぎを行う。	
	28	地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	21 (87.5%)	3 (12.5%)	発達支援講座を開催したり、見学や訪問で情報交換をしている。	あまり他の児発センターや通所支援事業とは、直接の連携は取れていない。
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	22 (91.7%)	2 (8.3%)	行くか行かないかは職員本人に意思によるが、情報は提供されている。 外部研修に参加している。	
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	24 (100.0%)	0 (0.0%)	自分は参加してはなくても、事業所自体は参加している。	
	31	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	13 (54.2%)	11 (45.8%)	活動する機会がある。 児童館の利用を取り入れた。	ほとんどの園児が並行通園しているため、交流保育園は実施していない。 以前はあったようだが、コロナ禍以降、ないと思う。
	32	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	24 (100.0%)	0 (0.0%)	面談の回数は確保できているのではないと思う。 面談を定期的に行っている。 面談や帰りの時間等で共通理解の時間を作っている。	
	33	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	24 (100.0%)	0 (0.0%)	ペアトレ、就学支援や放課後等デイサービスの情報提供などで説明会を実施している。 ペアトレの研修会を行っている。	

保護者への説明等	34	重要事項説明書、療育プログラム、利用者負担金等について丁寧な説明を行っているか。	23 (95.8%)	1 (4.2%)	重要事項説明を行っている。 説明会でやっている。	
	35	個別支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点の踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	24 (100.0%)	0 (0.0%)	手渡しで内容の確認を行っている。 ニーズ調査の作成をしてもらっている。	
	36	「個別支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	24 (100.0%)	0 (0.0%)	手渡しで内容の確認を行っている。 保護者に確認後、サインをもらっている。	
	37	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	23 (95.8%)	1 (4.2%)	定期的に面談を行っている。 定期面談以外にも電話や登園時のコミュニケーションで、話を聞いている。	できる限り行っているが、回数としては少ない。
	38	父母会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	22 (91.7%)	2 (8.3%)	保護者会、父母会を実施している。 交流する企画を設けている。	移動支援利用している方などに対する交流の機会の設け方などについて、難しさを感じる。
	39	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	23 (95.8%)	1 (4.2%)	その日のうちに対応するようにしている。	発達検査の申し込みに対して、検査者が多忙で検査の実施に結びつけにくいと、一定の手順を決めて欲しい。
	40	定期的に通信等を発行することや、HPや情報連絡システム（すぐーる）等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	24 (100.0%)	0 (0.0%)	すぐーるの活用により、頻度の違いが原因の漏れは少なくなったように感じる。 お便りを出している。 クラスだよりや献立表など配信している。	
	41	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	23 (95.8%)	1 (4.2%)		
	42	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	24 (100.0%)	0 (0.0%)	完璧ではないかもしれないが、配慮するよう努めている。 情報処理が追いつかない場合は、メモで渡すようにしている。 必要に応じて、ふりがなをふる、ひらがな表記やわかりやすい言葉で記載する。	
	43	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	16 (66.7%)	8 (33.3%)	今年度は行われなかったが、できる状況が整った年にはプラザまつりの催しがある。 コロナや移転で中止しているが、プラザ祭りを行っている。 発達支援講座を実施している。 これから体制を整えていく。	今は縮小しているように思う。
非常時等の対応	44	事故防止、緊急時対応、防犯、感染症対応のマニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	22 (91.7%)	2 (8.3%)	保健が職員向けに研修を開いている。 訓練している。	
	45	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	20 (83.3%)	4 (16.7%)	避難訓練を実施している。	定期的な訓練は実施されているものの、BCPについては公表や説明が十分ではない。
	46	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	24 (100.0%)	0 (0.0%)	特別な配慮事項を書いてもらう。朝の打ち合わせで確認している。 保護者から確認している。 朝礼で確認している。	
	47	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	22 (91.7%)	2 (8.3%)	医師の指示書ではなく、保護者からの指示に従っている。 対応している。	
	48	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	21 (87.5%)	3 (12.5%)	職員から保健や管理に報告することになっている。 安全確認を行ってから訓練している。	
	49	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	20 (83.3%)	4 (16.7%)	契約時に説明している。 周知している。	
	50	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	23 (95.8%)	1 (4.2%)	全体周知が必要なものは、管理から全体周知される。 防止策を話し合っている。	ヒヤリハットの報告は聞いているつもりだが、再発防止策についてはクラス間の共有は難しいように感じる。 各部門ごとに報告はされているが、再発防止に向けた検討はクラスまたは部門で行われていて、事業所全体でどの程度共有できているのかわからない
	51	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	24 (100.0%)	0 (0.0%)	毎年、アンケートを行っている。 行っている。	
52	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、個別支援計画に記載しているか。	23 (95.8%)	1 (4.2%)	保護者に説明、記録に残すことを行なっている。 やむを得ず。拘束した際は、理由と説明を行っている。	身体拘束については、誰もが悩みながら実施している部分だと思う。事業所としての方針をもっと具体的に伝えられたり、検討、相談できる仕組み作りをしてもらえればと思う。	